

「改元にあやかりたい」

県内企業、「令和特需」期待

新天皇即位に伴う5月1日の改元が近づく中、県内の企業は新たな商機につなげようと、新元号に関連した商品やサービスの提供を始めている。昭和天皇の崩御による「平成」の発表時とは異なり今回、世間は祝賀ムード。企業は「令和特需」に期待を寄せている。

(飯田ちはる)

関連商品やサービス続々

宇都宮市陽東4丁目の写真館「カズサヤ写真館」は、サービスを始めた。成人式の前撮りや七五三など、記

念写真の撮影をした客が対象だ。



カズサヤ写真館で撮影できる菅官房長官風の写真

子さん(47)は「菅義偉官房長官風に写真が撮れると人気。5月末まで実施する予定だが、要望があればその後も対応したい」と説明する。

「改元にあやかりたい」。

こう話すのは、さくら市氏家でおしぼりのレンタルや販売を手掛ける「三協」の担当者。改元を記念してパッケージに令和の文字をデザインした「令和おしぼり」を22日、発売した。価格は900本入りで税別630

0円。今年の12月末まで自社のネット通販サイト「おしぼり専門店」などで販売する。

担当者は「おしぼりはお客さまをもてなす時に使用する。令和おしぼりはめでたいし、ニーズがあるのではないか」と見込む。

一方、社名そのものを変えた企業もある。

矢板市中の不動産開発販売「緑新」は、グループ会社である不動産賃貸、飲食業「マロニエ」の社名を、新元号が発表された今月1日に「令和」へ変更した。緑新の小川忠男社長(75)は「昭和から平成へ変わった時も、当時新元号だった平成をグループ会社の社名に用いた。令和は落ち着きがあり、響きも良い。多くの人に覚えてもらえると嬉しい」と話している。